

電車に乗って新江ノ島水族館に行こう

神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町4-1-3-1-16
 社会福祉法人愛成会
 特別養護老人ホーム 愛成苑
 介護職員 ○高島 起代子 鈴木 浩二
 八重柏 尊

1 はじめに

特別養護老人ホーム 愛成苑は、介護社会に対する理事長の熱い思いから2009年9月に生まれました。私たちは、ご利用者様を“ゲスト”とお呼びします。そして、生きとし生けるもの全てが互いに愛し合い、助け合い、支え合って和をなす互助と感謝の気持ちを持って日々生きていく『愛生相和』の法人理念のもと日々業務にあたっています。

2年ほど前から、ゲストが持っている能力を大いに使って頂く、また更に回復して頂くことを目標に数々の行事を機能訓練指導員の指導のもとで計画するようになりました。

今回ご紹介する行事は、その一部ではありますが、「行ってよかったよ」「楽しかったね」とゲストの気持ちがとても現れたことにより、私たち職員も更なる挑戦意欲を高めました。

2 事例や取組の紹介

タイトルにあります『一電車に乗って新江ノ島水族館に行こう』には、大きく2つの目的があります。1つ目は普通の乗客として電車に乗り、社会の一員であることを思い出すことです。2つ目は水族館内でいろいろな海の生き物をみて、生命の素晴らしさを感じることです。

以下に行事計画から順番に紹介いたします。(第2回目について紹介します)

① 実施計画

2013年11月21日(木曜日)実施(出発予定12:00 帰苑予定17:30)

対象ゲスト:7名=要介護5:2名、要介護4:2名、要介護3:1名、要介護2:2名。

(認知症ランクはⅢa:4名、Ⅱb:1名、Ⅱa:1名、Ⅰ:1名の構成)

付添い職員:8名=介護部長・相談員・機能訓練指導員・看護師各1名、介護職員4名。

入場料・交通費については御家族に説明し、御理解頂いたうえ負担して頂きました。

② 事前準備

各鉄道会社への事前連絡と新江ノ島水族館内の状況調査(多目的トイレ、バリアフリー等)。

又、要介護5のゲストYさんについては、通常使用しているティルト型車椅子では体調悪化時に介護タクシーで帰苑出来ないため、普通型車椅子に慣れるよう1週間ほど前から練習を重ねました。

③ 実施当日に合わせゲストの体調管理を行う

今回の行事では、半日(5時間半程)の外出になることから、ゲストの健康管理を最重要に考え、看護部門との連携を強化しました。(前日排便、水分補水、バイタルサイン確認)

④ 当日の最終状況確認

要介護5のゲストYさんは微熱がある事と、要介護4のゲストNさんは便が緩いことから安全のため残念ながら2名不参加となりました。最終的には、ゲスト5名と職員8名で出発の運びになりました。(ゲスト5名中、車椅子利用4名、歩行器利用1名)

尚、途中でゲストの体調に不具合が生じた場合を想定し、看護師には応急手当用品・血圧計・頓服等の持出しと、直に迎えに行けるよう施設長と送迎車が苑で待機することにしました。

⑤ 相模鉄道の瀬谷駅まで苑の送迎車で移動(2往復)

全員集まったのを確認し、エレベータを利用し、いざホームへ。

⑥ 電車の最後尾に乗車しました。

ホームでは駅員さんが乗車のため、渡り板を持って待って下さいました。

⑦ 途中の大和駅では、相模鉄道本線から小田急電鉄江ノ島線に乗り換えになります。

地下1階ホームから地上2階ホームへの移動にはエレベータを最低でも4回利用しますが、事前に各鉄道会社に連絡し協力を頂いた為、スムーズな移動が出来ました。

そして、一般の乗客同様、電車でGO. GO !! (写真. 1、2)

車窓を眺めながらあるゲストが「電車に乗るのは何年振りかね」と言いながらとてもにこやかな表情をされます。体調を気遣う職員に対し「大丈夫、大丈夫」と笑顔で返します。



写真. 1



写真. 2

⑧ 片瀬江ノ島駅に無事到着です。(写真. 3)

苑を出発して2時間弱になります。11月とはいえ、気温は20度近くまで上がりとてもすがすがしい日和です。ゲストの体調はすこぶる良く、皆様とてもお元気です。



写真. 3



写真. 4

⑨ 新江ノ島水族館まで、徒歩移動します。(写真. 4)

歩道は舗装されているものの、段差がところどころにあり気をつけながらの移動です。歩行器を利用しているゲストも元気に歩かれています。

⑩ 新江ノ島水族館に到着です。(写真. 5)

沢山のクラゲや魚、海の動物を見て目を丸くするゲスト。興味津々に眺める職員。色々な光景が次々と現れていきます。そして、ゲスト・職員の笑顔、笑顔、笑顔。とても幸せな時間です。館内はバリアフリー化され、多目的トイレが4か所と充実していた為、苑と同じように利用できました。



写真. 5



写真. 6

⑪ 帰路に着きます。

楽しい時間は過ぎるのも早く、帰苑のため集合になります。帰路も往路と同じルートですが、帰宅ラッシュの影響で電車内は込み合いました。しかし「電車に乗れるなんて思わなかったよ」「イルカショーよかったね」「今度いつ行くの」等楽しい会話は続きました。瀬谷駅では職員だけで写真をパチリ。達成感と満足感で皆良い顔をしています。(写真. 6)

⑫ 無事愛成苑に到着しました。

ゲストは疲れた様子もみせず笑顔で帰苑されました。帰苑後の体調には問題がなく普段通りに過ごされています。他のゲストに思い出話をされる様子に、つい微笑んでしまいました。

3 考察

私たち職員は、ゲスト（ご利用者）との触れ合いで、常に気をつけて介助しなくてはいけない、無理をさせてはいけないと考えてしまいます。今回ご紹介しました行事は、初めての試みであり、心配な点は多々ありましたが、取り越し苦労であったと考えます。

ゲストには、計り知れない機能訓練的な効果と笑顔を増す効果が得られたと感じます。

『一電車で乗って新江ノ島水族館に行こう』は、今年の6月に3回目、10月に4回目を実施し、計20名のゲストが参加しました。参加により大きな効果が期待できるため、御家族の御理解を得て今後も継続していく所存です。

4 おわりに

私たちは、ゲストが施設に1度入所してしまうと遠くに外出することが難しいと思ってしまいます。だからこそ、各部署があらゆるリスクを想定して、ゲスト・職員が安心して楽しく過ごせるように検討に検討を重ねてきました。当たり前のように、施設の玄関から外出し、まったく知らない場所に電車を乗り継いで外出ができたというのは、ゲストも職員も良い経験と自信を得たと思います。今回も、帰ってきたら笑顔で「ありがとう。また行きたい」と御礼の言葉を頂いたことは、これからも私たちの思い出として、永遠に残ると思います。私たちは、身体のケアを考慮しながら、心のケアもすることを幸せだと思える職員の集団でありたいです。